

令和8年（2026年）1月21日

れきみん

資料館だより

No. III-51

相生市立歴史民俗資料館

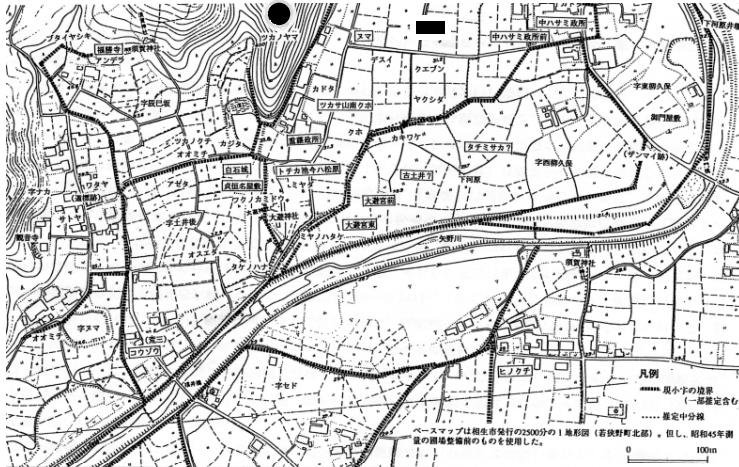
TEL (FAX) : 0791-23-2961 E-mail : aioi-rekishi-minzoku@vesta.ocn.ne.jp

〈連載 矢野荘-「中世あいおい」へのいざない-7〉 下土井遺跡-政所に隣接する複合遺跡-

本年度、東寺百合文書世界記憶遺産登録10周年・当資料館開館40周年を記念して、特別展「考古学からみた矢野荘」を開催しました（会期：10月26日～12月22日）。

展示では14の関連遺跡を紹介しましたが（中濱2025）、中でも下土井遺跡（相生市若狭野町下土井）は支配拠点「中ハサミ政所」推定地西側に広がる複合遺跡で、矢野荘を理解する上でとても重要です。

本遺跡は圃場整備に伴い発掘調査が実施されましたが、調査の期間・範囲が制限されたものになりました。また、調査は40年以上も前のことです、現在の発掘調査の水準からすれば、不十分なものといわざるを得ません。今後、刊行されている発掘調査報告書（松岡・河原 1984）もとに再検討を重ねていく必要があるでしょう。



下土井遺跡と大避山1号墳・「中ハサミ政所」・大避神社の位置

■ 下土井遺跡 ● 大避山1号墳 高木1998を改変

ここでは、報告書に記された遺跡の概要を簡単に紹介したいと思います。

1 調査の期間・面積と調査団

(1) 調査期間：1983年（昭和58）12月15日～1984年（昭和59）1月10日

(2) 調査面積：約1300 m²

(3) 調査団：松岡秀夫（調査責任者 有年考古館館長）、河原隆彦、松岡秀樹、谷崎良晴、石塚太喜三、竹本敬市、福田昭宏、中村仁、前田靖幸

(4) 事務局：相生市教育委員会社会教育課

(5) 調査協力：下土井土地改良区、相生市史編纂室、相生市シルバーハウス

2 遺跡の概要

(1) 試掘時

銅錢「元祐通寶」（北宋時代の1086年初鑄）、鉄鏃などが出土しました。

(2) 西部調査地区

弥生時代後期の集石土壙3、古墳時代後・終末期の須恵器集積地、平安時代の土師器集

積地（須恵器片・瓦片が混じる）などが検出されました。須恵器集積地から紡錘車形滑石製品が出土しています。

（3）東部調査地区

条里の軸線に沿って建てられた4棟の掘立柱建物〔10世紀後半～11世紀前半〕、祭祀遺構、池様遺構などが検出されました。

第1棟の東側（前面）と南側は浅い溝で区画され、東側溝の建物側斜面には石列が施されていました。第1棟地内からは、水晶玉、青磁碗（越州窯）口径15.6cm、器高約5.0cm）、須恵質の獸足、轍（はぐち）羽口、珪化木など、特異な遺物が出土しています。また、南に接した祭祀遺構とされる地点から土製円板、須恵器耳皿が出土しています。

その他、本調査区から土錐、粘板岩製砥石、土師質のカマド片も出土しています。なお、第4棟東側では池様の遺構が検出されており、庭園が存在していた可能性があります。



東部調査区第1棟付近（南東上方から） 松岡・河原 1984



東部調査区出土青磁碗（越州窯）



南部調査地区検出溝 松岡・河原 1984

（4）南部調査地区

弥生時代の土壙、条里の軸線と同方向に走る溝（長さ100m以上、上端幅1.8m、下端幅0.8m）が検出されました。溝内から金属製品を模したとみられる須恵器台付杯（9世紀）が出土したほか、鍛冶遺構から鉄滓、轍の羽口が出土しました。

3まとめ

弥生時代後期の遺構・遺物が検出されており、すぐ西側の尾根上に存在する大避山1号墳（墳長約57mの最古級前方後円墳）の築造背景を考える手がかりになります。

矢野荘成立以前の10世紀後半～11世紀後半には、有力者の居住や公的施設の存在が推測されます。特に、検出された遺構や出土遺物から、仏堂などの仏教関係施設や祭祀の場、鍛冶工房等が存在していたことがうかがえます。

〈引用・参考文献〉

高木徳郎 1998 『播磨国矢野荘の莊園景観と政所』『惡党の中世』 惡党研究会編（岩田書院）

中濱久喜 2025 『展示解説 考古学からみた矢野荘』（相生市立歴史民俗資料館）

松岡秀夫・河原隆彦 1984 『相生市下土井遺跡発掘調査報告書』（相生市教育委員会）

* 調査団の一員として調査に参加された石塚太喜三氏より有益なご教示をいただきました。

（中濱久喜）